

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0372500447		
法人名	社会福祉法人 やまどり福祉会		
事業所名	グループホーム「ぽっかぽっかの家」		
所在地	岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原坊主屋敷36の3 (電話) 0197-41-9311		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1		
訪問調査日	平成19年11月15日	評価確定日	1月8日

## 【情報提供票より】(19年10月22日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8.2 人

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,584 円	その他の経費(月額)	200円~2700円位
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200	円

### (4)利用者の概要(10月22日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	—名	要支援2	—名		
年齢	平均 83.4歳	最低	69歳	最高	94歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	国保金ヶ崎診療所、いわぶち脳神経クリニック、おいかわ歯科医院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>北上・金ヶ崎インターから西へ約1キロ、金ヶ崎工業団地を近隣に控え、平坦な原野を住民の賛同を得て開拓し、平成14年に開設された。隣接して特別養護老人ホームがあり、24時間非常時連絡可能で恵まれた施設である。広大な敷地の前方には、花壇や、畑もあり、「我が家の暮らし」3カ条を理念に、ノーマライゼーションの考えを基本にし、玄関から入った途端に、家庭的雰囲気がいっぱいのグループホームである。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善計画シートを策定し職員会議で話し合い、運営方針、入退居や、職員の採用などに反映させている。ホーム便りを発行したり、家族とのコミュニケーションの場を設けたりして必要に応じて、本人、家族に報告している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善意識が強く、さらにリスクマネジメント、危険予知訓練シートなども活用し、職員全員でサービスの質の向上に取り組んでいる。自己評価は、サービス向上に欠かせないことであるので、継続を期待したい。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>推進会議は2カ月に一度開催されており、活動状況の報告、評価及び要望、助言を受けるようにしているが、さらに自治体職員、地域住民代表からの助言を期待されたい。当面の課題としては、スプリンクラーの設置に伴う、大工事の際の利用者の処遇、その他段取り関係について検討していく予定としている。</p>
重点項目 ②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情の申し出は殆どない。月一度の相談員の施設訪問、施設内に意見箱の設置などして、事業所へ、いつでも相談できる体制作りはされている。</p>
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>月に一度、金ヶ崎の介護相談員が訪問し、ホーム内のケア会議に参加し、気付いた点等を参考にし、情報交換、相談等の意見交換を行い、地域との繋がりを深めるように努力している。幼稚園、小・中学校、部落の方々との交流は盛んに行なわれている。</p>
重点項目 ④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には、「我が家の3カ条」《1. お互いが人として尊厳を重んじ合いながら暮らします。2. やさしさと思いやりを常に心がけ暮らします。3. あたたかさ、笑い喜びが共感できる暮らしを求めます。》以上の理念を玄関ホール、リビングに掲示し、常にノーマライゼーションを基本としたケアに当たっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	良く見るところに理念を掲示して、常に念頭に置き、支援を行なっている。また、OJTチェックリストを用意し、月の目標をたてて、5段階表に記入し自己意識を高めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の夏祭り、地域の鬼剣舞、プロの歌手、小・中学校、地域の方々のボランティアなどを受け入れ、スケジュール表いっぱい交流活動を行なっている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善計画シートを用意して、職員会議で検討し実践に取り組んでいる。また、自己評価、外部評価で気付いた点も職員間で話し合っ前向きに捉えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度の開催でサービス向上に取り組んでいるが、地域の人たちとの関係を良くする為の活発な意見が事業所が主体になって進められている状態である。	○	役所、地域の方々との絶好のコミュニケーションの場であるので、さらに活発な前進的な意見を出して頂き、協力をしてもらう方向に持っていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度、金ヶ崎の介護相談員が来て、情報交換、相談、意見交換を行っている。広報なども市町村の担当者に配り、ケアサービスの取り組みを折に触れ伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等が来訪時には、利用者の状況を声かけて話し合っている。また金銭についても金銭出納帳を明示し、定期的に報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス内容に関する相談、苦情専用窓口が設けられ、担当者も決まっていることは重要事項説明書に明記されており、受け入れ体制は整えられ、家族の訪問時等にも常にコミュニケーションを図り、何でも言ってもらえるような雰囲気を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の人事考課制度を導入し、それに基づいて必要最小限の異動に配慮している。今年度、1人異動したが、利用者にはきちんと紹介し、影響のないように工夫された。退職した人はなかった様子である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人一括でスケジュールを立てており、年間行事計画に基づいて受講させている。職員には、資格取得をした際には、奨励金制度も設けており、職員の意欲向上も図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの見学や交換研修など、同業者研修会などに積極的に参加し、質の向上に努力している。また、事業所以外の人材の意見や経験もフルにケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況に応じて、家族と相談しながら対応している。最初は、できるだけ家族が寄り添うようにして頂き、不安感を抱かせないように気を遣っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として接していることは、調査時のケアの様子を確認しただけでも、十分に理解できた。また、職員は利用者の長所短所も理解しており、(職員が)利用者から教わっている様子がうかがえた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	難聴の方もいるが、職員は意志疎通のコツを把握されているようで、おだやかに過ごしている。最近ではホームを自宅のように思い帰宅を希望される方はいない状態である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように本人、家族の要望を聞き、医師、隣接の特養施設の看護師と連携し、さらに職員の業務日誌を参考に作成している。非常にまとまった介護日誌である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に一度見直されるが、職員会議の中で話し合ったこと等を参考にしながら必要に応じて随時家族、本人の要望を聞き見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1件ショートステイの申し込みがあり、現在1部屋空いているので、判定会議で決定し、体制を整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医など、複数の医療機関と関係を密にしている。家族からの要望があれば、いつでも従うようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応指針を定め、利用開始時、十分に説明を行なっているが、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意し、併設施設の看護師の協力を得ながら対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	OJTチェックリストを活用し5段階評価項目を設け、点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように努力している。OJTチェックリストの活用はよりよいケアへの取り組みとして非常によいと思われる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者が、ケース会議等で利用者を自分の親のように思い接する様に指導し、職員は毎日目標を立て、(利用者)本人の気持ちを尊重するようにして支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には野外で食べたり、外食をしたり、ホーム内でバイキングを楽しんだり、季節の食材を取り入れたり、職員と利用者が一体となり活動している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方向的に決めず、その日の希望に応じて入って頂いている。時にはバラ湯、しょうぶ湯など行い楽しんでいる。毎朝バイタルチェックはしているが、様子によっては直前に行なう場合もある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居の時に経験、特技など聞きとり、それをもとに日頃対応している。座布団縫いや、洗濯物たたみとか、野菜づくりとか、あくまでも無理のないように活動している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	各人の習慣や楽しみごとに合わせて、買物、ドライブ、外食、お墓参りなど、外部との接触を心がけている。しかし、高齢化が進んでいるので無理をして逆効果にならないように気をつけることも大事である。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	プライバシーには気を遣っており、各居室の入口ドアにも内鍵を付けているが、緊急時対応用として、すぐ脇に外側から内鍵が外せるつくりにしてあり、細かい気遣いがなされている。日中は玄関には鍵はかけてないで、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、地域の消防団の指導のもと、災害訓練を行なっている。年に一度消防署も検査指導に来ている。応援などで地域の人々にも声がけして、協力を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士に食事量、水分摂取量などを指導され、職員はそれぞれのチェック表をもとにおおまかに栄養摂取量を把握している。また、月に一度は、利用者の体重測定も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入口には、それぞれ利用者の好きな花の写真が掲げられ、気が和らぐ雰囲気である。リビングには堀ごたつ、背もたれがあり、広大な前庭の花壇や野菜畑も一望でき、季節感を意識的に取り入れる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの居室もフローリングにベットで、清潔そうに見えた。希望者には畳を敷いており、それぞれ小さなタンス、衣装ケースなど持込みがあった。		